

株式会社とうほうスマイル

■企業訪問



- 代表取締役社長 土屋 広行
- 所在地：福島市飯坂町平野字桜田3-4
東邦銀行事務センター内
- 創業：2012年3月
- 資本金：3,000万円
- 従業員：28名（うち障がい者数22名）
- 事業概要：印刷事業、銀行付随業務



代表取締役社長
土屋 広行



障がい者の
笑顔があふれる会社

左から本多取締役統括部長・木城専務取締役

福島労働局（2023年12月発表）によると、県内の民間企業に雇用されている障がい者数は、5,479人（2023年6月現在）と過去最高を更新（前年比215人）しました。

県内民間企業の法定雇用率達成割合は56.7%で全国平均（50.1%）より高いものの4割近くが未達の状況にあります。障害者雇用促進法により、法定雇用率が2024年に2.5%、2026年から2.7%へ段階的に引き上げられ、障がい者が自らの希望や能力によって職業を通して社会に参加出来る機会が更に広がることが期待されています。

今回、福島市飯坂町にあり、障がい者が中心となって働いている「株式会社とうほうスマイル」を訪問し、木城専務取締役ならびに本多取締役統括部長に障がい者雇用の取組み、人材育成などについてお話を伺いました。

■ 笑顔があふれる会社

～現在の体制や業務内容についてお聞かせください

当社は、東邦銀行70周年記念事業の一環として2012年3月に設立、同年4月に事業を開始し、厚生労働大臣より「特例子会社^(注1)」の認定を受け、今年3月に12周年を迎えました。（注1：障害者雇用の促進と安定を図るため、障がい者の雇用において特別の配慮をする会社）

「とうほうスマイル」という社名は行員から公募し「笑顔があふれる会社になるように」という思いが込められています。

現在、社員は従業員が28名のうち障がい者が22名ですが、通常は障がい者を雇用している場合、身体障がい者のみ、知的障がい者のみ等のケースが多く、当社のように各障がい者が混在し共同で業務を行っているケースは珍しいと思います。その分、スタッフ側は様々な障がい者に対応できる幅広い知識と経験が必要とされます。



当社では、東邦銀行のキャッシュカード作製、為替業務、印刷業務などを行っています。

キャッシュカード発行業務では、社内にある専用の機械を使用してカードの作製からお客様への発送準備までを行っています。

為替エントリー業務は、東邦銀行の窓口で受付した振込の銀行名、支店名、口座番号・受取人名などを入力する大事な業務であり、通常は社員3名程度ですが、月末などの繁忙日

とうほうスマイルの主な業務内容

障がい	人数	主な業務内容
聴覚・言語障がい	3名	リーダー、キャッシュカード発行、書類発送、為替エントリー
肢体不自由	4名	印刷、名刺作製、総務
内部障がい	2名	リーダー、ゴム印作製、ポスター印刷
知的障がい	6名	手形・小切手帳発行、書類発送、為替エントリー
精神障がい	7名	名刺作製、印刷、書類発行、為替エントリー

には他系の応援を得ながら端末10台を全て使い対応しています。

また、自社で印刷したDMや各種パンフレットなどを外部顧客あてに発送したりしています。他の金融機関の業務も受託しており、県外他行からは、点字で残高を書類で通知するサービスや、県内他行からは、各銀行で使用する名刺やゴム印の作製業務を受託しています。

■「ともに学び、ともに生きる」を理念

～障がい者と一緒に仕事をする際に心掛けていることについてお聞かせください

「ともに学び、ともに生きる」を理念に、障がいがある社員が持っている能力を生かし「働くことの喜び、人に必要とされることの喜び」を感じ、より良い人生を送ってもらいたいと考え、会社としては、それを



サポートしていくことが大事だと思っています。そして、社員がそれぞれ能力を発揮し、働きがいを感じながら経済的自立の一助になればと考えています。親が亡くなった後に、社会的にも経済的にも自立できるよう、強い人間になることも目的に教育に取り組んでいます。

仕事を進める上で、心掛けていることは、基本的なことですが、「挨拶」「報・連・相」「正・速・美」の徹底です。業務手順書を整備し、障がい特性を踏まえた業務互換性向上を図っています。職場内に、注意喚起を促すために、吊看板や、目につく所に、注意メッセージ等を記載することで、社員への職務意識の熟成、ミスの軽減に努めています。

■相手の目を見て体調を管理

～障がい者と一緒に仕事をする上でご苦労なされたことについてお聞かせください

仕事のミスや間違いを説明する場合は、本人に分かってもらうよう、納得するまで時間をかけ丁寧に説

明することを心がけています。また、障がいのある社員と接する中で、気を付けている点は、声の大きさです。大き過ぎず、小さ過ぎないことを心がけています。

その他には、体調管理が難しく、相手の目を見て体調を管理するということが重要だと思っています。障がい者の中には、過集中となり、疲れてしまう傾向の人もあるので、休憩時間をあらかじめ決めていたり、どこでストップをかけるかということに気を付けています。また、中には急に仕事を休んだりもするので、仕事の割り振りに気を遣う場合もあります。具合が悪い時は、いつでも帰ったり、休んだりできるよう配慮しています。そのためにも社員には、複数の業務を行えるよう教育もしています。



■ やりがいを持って 長く働きたい会社にする

～ 障がい者雇用によって得られた成果と今後の課題についてお聞かせください

まず、一番驚いたのは、障がいのある社員は、それぞれ高い能力を持っているということです。作業では障がいのない人よりも「正確で速い」ということもあります。また、障がいのない人にはない特別な感性を持っている方もいて、印刷事業において、構成や色使いなどに素晴らしい能力を発揮しています。とうほうスマイルが、各自が持っている能力を発揮できる業務で活用することにより、銀行業務の効率化に多大に寄与できるものと思っています。



「全国アビリンピック2023」^(注2)で、とうほうスマイルの社員2名がオフィスアシスタントとパソコンデータ入力の2種目に福島県代表で参加し銅賞、努力賞を受賞しています。この大会に参加する意義としては、本人のモチベーション向上はもちろん、目的に向けて努力する姿勢が、社員

全員の業務に対する意識向上、職場の一体感に繋がることです。また、こうした実績が、同社の業務と社員に対する社内外からの評価に大きく影響しており、引き続き参加していきたいと考えています。

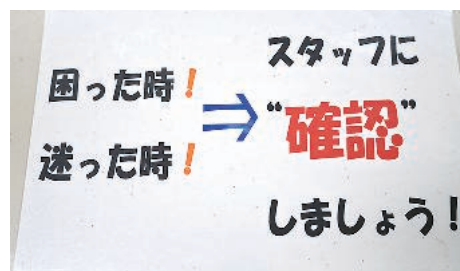
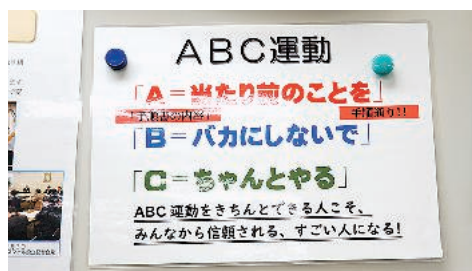
社員一人一人が能力に応じた業務を担当し、年々着実に成長しており、業務内容も多様化し、生産性も大幅に向上しています。

今後の課題としては、社員の処遇向上、取扱い業務の拡充、安定的な新規採用・雇用維持だと考えており、如何にして「やりがい



持って、長く働きたい会社にする」ことが大きな課題だと考えています。職務習得の早い（成長した）社員に対しては、将来、スタッフ職の役割まで担えるよう、社員への業務指示や業務管理意識の熟成を促していくことや、当人の意思を尊重しながら、銀行本体やグループ会社での活躍も検討していきます。今後も当社へのご支援をよろしくお願いいたします。

注2：アビリンピック（障害者技能競技大会）…障がいのある方々が、日頃培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々に障がいのある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的とした大会。



社内に掲示されている注意喚起を促す吊看板・メッセージ

インタビューを終えて

障がい者雇用では、障がいの有無に関係なく、希望や能力に応じて誰もが職業を通じた社会参加のできる共生社会、つまり均等に働ける社会を目指すために、さまざまな制度が実施されています。障がい者雇用に関する助成金制度も多く、企業側・労働者側の双方にとってメリットが大きいため、更なる企業の発展や共生社会の実現などが期待できます。

今回、実際に障がいの種類に関係なく、共同で業務を着実にやっている姿、職場を見て、障がい者の働く可能性を大いに感じました。 (担当：嵐 俊勝)